

# 「原子力研究の主要な成果」2007年版の 発刊にあたって

原子力発電は CO<sub>2</sub> 削減に大きく寄与することで、地球温暖化対策の最も有効で重要な役割りを期待されており、また安定したエネルギー供給源であることから、世界各国でその役割りが見直されつつあり、いわゆる原子力リネッサンスを迎えようとしています。しかしながら、原子力がその役割りを十分に果たすためには社会に認められる技術であることが重要であり、そのために廃棄物処分や安全性向上を含めた課題に関して弛まぬ技術開発が今後とも不可欠です。

原子力エネルギーの有するこのような特徴を活かすために、電力中央研究所は原子力に関する基盤技術を支える研究開発、あるいはブレークスルーをもたらす革新的な技術開発を進めています。原子力技術は総合的な取り組みが必要であり、電力中央研究所においても、原子力技術研究所、材料科学研究所、地球工学研究所および社会経済研究所の連携の基に実施しています。更に、平成 19 年 5 月には、軽水炉発電の長期的な活用に向けて、横断的に研究を進めるため「軽水炉高経年化研究総括プロジェクト」が発足しました。また、従来の放射線の生物影響を対象としていた「低線量放射線研究センター」を発展拡張し、放射線計測や被曝量評価の研究を合体することで、合理的な放射線防護に関する研究を促進することと致しました。

電力中央研究所は、時代に即応しつつ、将来を見据えた技術開発を鋭意推進し、原子力利用を支えることで地球環境対策とエネルギー安定供給に寄与したいと思っております。

本冊子は、2006 年度の電力中央研究所原子力分野の研究開発成果を纏めたものです。ご覧いただき、当研究所の原子力分野の活動につきまして一層のご理解を戴くとともに、ご意見を頂戴できれば幸いです。

理事 原子力技術研究所長 横山 速一